

# 6 フィリピン

Philippines

基礎データ	人口	1億1,556万人(2022年)	日本との関係	日系企業数	1,434社(2022年)
	名目GDP	4,043億米ドル(2022年)		在留邦人数	12,989人(2023年)
	1人当たり名目GDP	3,499米ドル(2022年)		日本食レストラン数	760店(2023年)
	実質GDP成長率	7.6%(2022年)			

## 1 市場の特性と消費の動向

### 健康ブームの影響で日本食の人気上昇中

#### A 市場の特性

フィリピンの主食はコメ(長粒種)であり、平均的なフィリピン人は年間120kgを消費します。白米が好まれる一方で、有機米、玄米、赤米、黒米等がより健康的なコメとして評価が高まっています。コメの生産量は微増にとどまっていますが、人口が急増しているため、国内需要が生産を上回り、毎年300万トン以上のコメを輸入しています。輸入増加のきっかけは、2019年にフィリピン政府がコメの輸入を原則自由化する「改正農業関税法」を施行したことです。コメの輸入先としては、ベトナムが全輸入量の85%を占めており、タイ、インド、ミャンマーがこれに続きます。一方、日本からの輸入量は全体の1%未満となっています。

#### B 消費の動向

フィリピン人の主食は長粒種のインディカ米で、塩辛い料理と合わせたり、甘いスナック菓子(スマン、チャンポラドなど)に加工されたりします。フィリピン人は日本産米を高級米として認識しており、日本食で食べるものと考えています。現在では、フィリピン人の所得が上がり、日本への観光客が増えるにつれて、日本食に対する認識と評価は高まっています。日本産米は主に日系の食料品店で販売されています。米菓や米粉麺などのコメ加工品も少ないながら日系食料品店で販売されるようになってきました。

表-1 コメの生産・消費・輸出入の状況

MY(7月～翌6月)	2021	2022	2023
生産量(千トン)	12,540	12,625	12,600
消費量(千トン)	15,400	16,000	16,400
輸出量(千トン)	0	0	0
輸入量(千トン)	3,600	3,750	3,800

(出典)USDA(精米ベース) 2024年1月30日時点

表-2 日本からのコメの輸出状況

暦年	2021	2022	2023
輸出量(トン)	59	84	396
輸出単価(円/kg)	334	388	285

表-3 日本からの米菓の輸出状況

暦年	2021	2022	2023
輸出量(トン)	33	20	31
輸出単価(円/kg)	1,010	1,284	1,226

表-4 日本からの包装米飯等の輸出状況

暦年	2021	2022	2023
輸出量(トン)	4	5	11
輸出単価(円/kg)	1,712	1,367	929

(出典)財務省「貿易統計」(政府による食糧援助を除く) 2024年1月30日時点

コメの主な輸入先国・地域

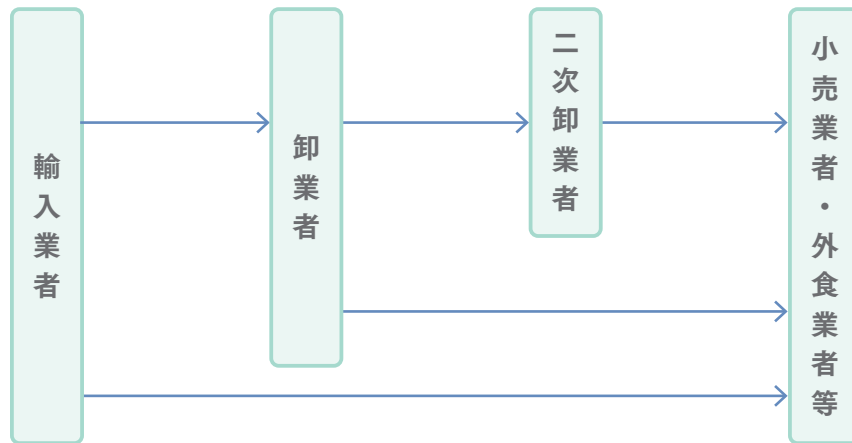
ベトナム、タイ、インド、ミャンマー、パキスタン、中国

## 2

## 流通チャネルと取引慣行

### A 日本産米の流通経路

フィリピンは日本と同じく島が多く、輸入される食品はマニラ等の都市部で輸入されてから、複数の卸業者を通じて流通するのが一般的です。そのため、国内輸送は、航空か船舶で行われることが多く、輸送費がかさみ、輸送日数も要します。一方、大手流通や大手外食業者は、輸入業者から直接購入する場合があります。



(出典) 現地聞き取りなど

### B 取引慣行

日本産食品の取扱いは高級スーパーのみです。なお、フィリピンの小売業・外食産業には外資規制があるため、参入するためには現地企業との合弁やフランチャイズ契約が必要です。モールやデパート、大規模スーパーなどの大規模小売店は中華系・スペイン系の財閥が事業展開しています。

慢性的な交通渋滞により、物流が安定しているとは言えません。コールドチェーンは冷凍・冷蔵倉庫は整備が進んでいますが、トラックなど輸送手段の整備が遅れています。また、温度管理の重要性に対する物流業者や店舗の従業員等の意識も高くないのが一般的です。

## 3

## 関税割当枠と関税

### 日本からのコメの輸入関税率は35%

#### ■ 関税割当枠

フィリピン政府は2019年2月14日に「改正農業関税法(コメ関税法)」を公布し、コメの輸入数量制限を撤廃しました。日本からのコメに対する関税割当枠はありません。なお、コメ加工品にも関税割当枠はありません。

#### ■ 関税

コメの輸入関税率は、2019年以降関税引き下げ措置によりASEAN加盟国は35%と設定されています。EPAを締結している日本も35%が適用されています(植物検疫証明書とフィリピン農業省が発行する輸入許可証(SPS-IC)の取得が必要)。この措置は毎年更新されていますが、2024年末までの延長が決まりました(2023年12月)。今後、更新されない場合には輸入関税率は50%になります。なお、誰でも自由に輸入することが可能です。

#### 【包装米飯の輸入関税率(HSコード：1904.90.10)】

- JPEPA(日本・フィリピン経済連携協定) 税率……………0%
- AJCEP(日本・ASEAN包括的経済連携協定) 税率……………0%
- RCEP(地域的な包括的経済連携) 税率……………0%
- MFN(最恵国) 税率……………7%

#### 【米菓の輸入関税率(HSコード：1905.90.80)】

- JPEPA(日本・フィリピン経済連携協定) 税率……………0%
- AJCEP(日本・ASEAN包括的経済連携協定) 税率……………0%
- RCEP(地域的な包括的経済連携) 税率……………0%
- MFN(最恵国) 税率(2017～2020年)……………15%

## 4 検疫制度と食品規制

### コメの輸出には日本の植物検疫証明書とフィリピン政府発行の輸入許可証が必要

#### A 検疫制度

精米・玄米を輸出するためには、日本の植物検疫証明書と、フィリピンの農業省が発行する輸入許可証が必要です。なお、輸入許可証取得の際に、以下の例のような要件が示されますので、その要件を満たさなければいけません。

(検疫の要件の例)

精米をホスフィン $2\text{g}/\text{m}^3$ で120時間、または $9\text{g}/\text{m}^3$ で72時間 $28^\circ\text{C}$ 、もしくは植物防疫機関(NPPO)が認めるくん蒸方法で処置した上で、当該くん蒸方法を植物検疫証明書に記載すること。

(その他の要件)

- ① 非遺伝子組換え(Non-GMO)である旨の証明書を添付すること。
- ② ヒ素、鉛、カドミウムなどの重金属検査を行った上で、重金属検査証明書を添付すること。
- ③ 衛生植物検疫輸入許可証(SPSIC)及び植物検疫手続(PQC)番号は、添付する植物検疫証明書に記載すること。

また、輸入に際して、輸入許可書(SPSIC)発行日後60日以内に荷物がフィリピンに到着することが求められます。

なお、加工食品の輸入・流通・販売、もしくはフィリピン国内での再包装には、フィリピン食品医薬品管理局(FDA)から営業許可(License to Operate: LTO)と製品登録証明(Certificate of Product Registration: CPR)の発行を受ける必要があります。

#### B 食品規制

##### ■ 製品表示の内容

食品のラベル表示について、表示が義務付けられている情報は以下のとおりです。英語またはフィリピン語の表記が義務付けられています。

- a. 商品名
- b. ブランド名、トレードマーク(ある場合のみ)
- c. 原料成分(含有量の多い順)：添加物の表記も含まれる。
- d. 正味量および固形量
- e. 輸入者の会社名、住所および原産地： 外国ブランドの製品については、当該製品を製造する外国企業の名称および住所を、(ローカル企業名が記載される場合)ローカル企業のものよりも小さな文字で記載する必要があります。
- f. ロット識別番号

- g. 保存方法
- h. 消費期限
- i. アレルギー表示
- j. 当該商品の正しい使い方(食べ方)
- k. 栄養成分表示(エネルギー、タンパク質、炭水化物(食物繊維と糖類を含む)、脂質(飽和脂肪酸、トランス脂肪酸、コレステロールを含む)、ナトリウムを表形式で表示)

なお、レストランやケータリング(機内食等)用に使用されるもの、フィリピン国内で加工・再包装するもの、パッケージの表面が10cm<sup>2</sup>以下のものについては表示義務が免除されます。

### ■ 残留農薬基準

コメの残留農薬については、フィリピンの農水産基準局(BAFS)のウェブサイト上に基準値が公開されています。

なお、加工食品の残留農薬を定めた規制制度はありません。フィリピン食品医薬品管理局(FDA)では「製品登録証明(CPR)」の申請手続きにおいて、原産国が発行する自由販売証明(CFS)などの提出を義務付けており、これによって該当輸入食品には残留農薬などの問題がないという証明がなされているとみなし、特にフィリピン側で厳しい残留農薬規制を課す必要はないと考えています。

### ■ 東京電力福島第一原子力発電所事故に関連した輸入規制

2020年1月8日、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う日本産食品の輸入規制は撤廃されました。

## 5

### 小売店の店頭価格

## 日本産米のキロ単価は、フィリピン産ジャポニカ米の1.5倍以上

### A コメの販売価格

日本産米はフィリピン産ジャポニカ米の約1.5倍から3倍、地元のインディカ米の約4倍の価格で販売されています。また、香りはジャスミン米に近く、食味はジャポニカ米に近いという混合種、ジャスポニカ米も販売されています。

表-5 コメの販売価格(調査月:2023年7月)

商品名	原産国 (産地)	販売 単位	価格 (ペソ)	販売単位で の円換算*
Five Star Rice Meister Ryo Tanaka Japanese Rice	日本	5kg	1,199	3,080
Akita Komachi Japanese Rice	日本	2kg	520	1,334
Don Quijote Japanese Rice	ベトナム	10kg	900	2,312
Yumi Japanese Rice	フィリピン	5kg	360	924
Mt. Fuji Koshihikari Japanese Rice	フィリピン	5kg	930	2,389
Mrs. Lam Fragrant Dinorado Rice	フィリピン	2kg	174	447

表-6 包装米飯の販売価格(調査月:2023年7月)

商品名	原産国 (産地)	販売 単位	価格 (ペソ)	販売単位で の円換算*
Ottogi Cooked Rice	韓国	200g	58	149
CJ Heibahn Cooked Black Rice	韓国	210g	98	252
Gits Ready Meals Veg Biryani	インド	265g	188	483
Microwaveable Japanese Rice	日本	200g×3	150	386
Insta Rice Ready-to-Cook Rice	フィリピン	200g×20pcs	1,000	2,570

表-7 包装米飯の販売価格(調査月:2023年7月)

商品名	原産国 (産地)	販売 単位	価格 (ペソ)	販売単位で の円換算*
Want-want Shelly Senbei Rice Crackers	台湾	72g	59	151
Orion O'Rice Rice Snack	韓国	129g	85	216
Kaoru Shioaji Senbei Deep Fried Rice Crackers	日本	87g	174	446
Regent Snacku Rice Crackers	フィリピン	60g	17	44
Chao Sua Rice Cracker with Flossy Pork	タイ	80g	185	474

\*1フィリピンペソ=2.57円換算

### B 包装米飯の販売価格

包装米飯は、一般的にはコンビニエンスストアで売られており、その大半は自国産(レトルト)か韓国産です。とり釜飯やチキンライスといった調理済み米飯も市場に出回っていますが、まだニッチな存在です。インドからの調理済み米飯の価格帯が最も高く、日本産はその次に高く販売されています。

## C 米菓の販売価格

スーパーマーケットやコンビニエンスストアでは、各国から輸入された米菓がいくつか売られています。台湾産の「旺旺大雪餅 (Want-want Shelly Senbei) せんべい」などが人気です。日本産や韓国産の米菓の他に、味付けされたタイ産のせんべい等も売られています。

## 6 インターネット販売の実態

フィリピンにおけるインターネットを利用した小売売上高は、2021年に約170億米ドルに達し、2025年までに240億ドルになると見込まれています。EC市場の最大手であるLazadaとShopeeは、フィリピン食品医薬品局 (FDA) に登録され、原材料、賞味期限、原産地、包装材を明記することを条件に、コメ・コメ加工品を含む食料品や食品を取り扱っています。LazadaやShopeeを使う越境セラーは、通常は現地企業として登録する必要はありませんが、輸入食品を販売するために必要なライセンスは現地企業のみを与えられるため、食品の越境セラーには現地での企業登録が必要となります。

ECプラットフォームの他に、現在では宅配アプリやオンライン食料品専門店のウェブサイト等を利用して食料品を購入することもできます。それに伴い、スーパーマーケット各社は独自のオンライン食料品プラットフォームを立ち上げています。これらのウェブサイトでは日本産のコメ・コメ加工品も売られていますが、その数は少ないです。

主要ECサイト	a. Lazada	<a href="https://www.lazada.com.ph/">https://www.lazada.com.ph/</a>
	b. Shopee	<a href="https://shopee.ph/">https://shopee.ph/</a>
	c. GrabMart	<a href="https://www.grab.com/ph/mart/">https://www.grab.com/ph/mart/</a>
	d. FoodPanda	<a href="https://www.foodpanda.ph/groceries">https://www.foodpanda.ph/groceries</a>
	e. MetroMart	<a href="https://www.metro mart.com/">https://www.metro mart.com/</a>
	f. Tokyo Market (日本食料品専門店)	<a href="https://tokyomarket.ph/">https://tokyomarket.ph/</a>

## 7 輸出拡大に向けて

フィリピンのコメの需要量は国内生産量を上回っており、輸入米への依存が高くなっています。しかし、一般的なフィリピン家庭では、高価な日本産米を家で消費することはあまりなく、主にレストランで日本食を楽しんでいます。このような状況で日本産米のターゲットとなるのは、本格的な日本食を提供するレストランなどの業務用となります。現在では、日本食レストランがマニラ以外でも増加しており、今後も拡大すると見込まれています。日本産米で差別化を図ろうと考える日本食レストランとの連携は、需要を拡大する上では重要なアプローチとなります。